

令和元年6月15日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02039

研究課題名(和文)『バガヴァッドギーター・バースカラ註解』テキスト校訂研究

研究課題名(英文)A Critical Edition of Bhaskara's Bhagavadasayanusarana

研究代表者

加藤 隆宏 (Kato, Takahiro)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授

研究者番号：80637934

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、9世紀頃のインドに現れた思想家バースカラの著作の一つである『バガヴァッドギーター註解』を取り上げ、1965年に出版された初版本にみられる不備を写本等の資料に基づいて修正し、新しい校訂テキストを作成することである。初版本に基づいたヴァラナシのサラスヴァティ・バヴァン所蔵のV写本(デーヴァナーガリー文字写本)とロンドンのウェルカム・インスティテュート所蔵のL写本(シャラーダー文字写本)を再度精査し、判読の難しい箇所を除く写本資料の全体の照会を終えた。本文中で引用される章句についても、データベースなどを利用してできる限りそのソースの同定し、学術的な利用に耐える形のテキストを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で取り上げた思想家バースカラについては、これまでまとまった研究がなされてこなかった。その原因の一つとして、彼の主要著作である『ギーター註解』の版本の不備が指摘されてきた。本研究によって、バースカラ研究のための基礎資料が整ったことになり、今後はバースカラの思想解明に向けた研究がさらに促進されることになるだろう。また、バースカラによる『ギーター註解』は、流布版とは異なるバージョン、いわゆるカシュミール版と呼ばれるものに対する註解であることが知られている。今回の研究を通じて得られた情報は、これまでほとんど手つかずであった異本の註解文献群を体系的に網羅するための新しい資料を提供することになった。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of this research project is to prepare a critical edition of Bhaskara's commentary on the Bhagavadgita (also called Bhagavadasayanusarana). The first edition of the text published in 1965 has been reputed to be deficient as compared to the latest scholastic standards. The text has been counter-checked against two manuscripts, one of which is collected in Sarasvati Bhavan Library in Varanasi, and the other in Wellcome collection in London. In addition to the examination of the reading of the text, sources of quotations and cross-references inside the text have been identified as long as possible. This edition is typeset in Devanagari script, together with the records of variant readings in the manuscripts, and information of the sources of quotations. All kinds of differences which have been made by the present editor are discussed separately in notes.

研究分野：インド哲学

キーワード：バースカラ バガヴァッドギーター ヴェーダーンタ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究課題で取り扱った『バガヴァッドギター・バースカラ註解』(以下、『ギター・バースカラ註解』)は、9世紀頃にインドに現れた思想家バースカラの手によるインド聖典『バガヴァッドギター』(以下、『ギター』)に対する註解書である。『ギター』は、『ウパニシャッド』、『ブラフマーストラ』と並んでヴェーダーンタ派の三大聖典と称される重要文献で、以来多くの思想家たちがこれに対する註解書を著すなど、現代に至るまでヒンドゥー社会の精神文化の拠所として大きな影響力を持ち続けている。また、『ギター』はヨーロッパをはじめとする各国語に翻訳されて紹介され、インド学研究史のなかでも最も注目度の高い文献の一つである。

『ギター』に対する註解書として最もよく参照されるのは、有名な哲人シャンカラの手による『バガヴァッドギター・シャンカラ註解』で、しばしば難解な『ギター』の内容をシャンカラの解釈を手掛かりに読み解こうという試みがなされてきた。同様の手法は『ブラフマーストラ』研究にも見られ、『ブラフマーストラ』の簡潔な文言の原意をシャンカラの註解書に基づいて再現しようという先行研究は多い。しかしながら、思想家たちが議論の応酬を通じて彼らの思想を華々しく発展・展開させた当時の状況に鑑みるに、シャンカラという思想家の解釈のみをもってしてこれらの重要文献の真意を掴みとろうという研究方法には限界があることが、これまで中村元博士をはじめ多くの研究者によって指摘されてきた。

このような指摘を踏まえ、申請者はシャンカラと同時代か少し後に活躍したとされるヴェーダーンタ派の思想家バースカラに着目し、彼の現存する著作である『ブラフマーストラ註解』と『ギター・バースカラ註解』のテキスト校訂・訳注研究を柱とするプロジェクト「バースカラ」に着手した。平成18年度から平成23年度にかけてはバースカラの主著でもあり、唯一完本として現存する『ブラフマーストラ註解』のテキスト校訂研究(“Der Brahmasūtra-Kommentar des Bhāskara: Diplomatische Nachlaßedition (J.A.B. Van Buitenen) und kritische Neu-Ausgabe,”ドイツ学術振興会奨励研究)に従事し、平成23年2月にその成果の一部を学位論文“The First Two Chapters of Bhāskara’s Śārīrakamīmāṃsābhāṣya – Critically edited with an Introduction, Notes and an Appendix”としてドイツ・マルティンルター大学に提出した。校訂研究では、新たに所在が確認された写本の情報など、現時点で入手可能なすべての資料を駆使し、現代の学術水準及び技術水準を最も効率よく反映する形で校訂テキストを作成した。また、平成24年度からは科学研究費による『『ブラフマーストラ・バースカラ註解』第一篇訳注研究』(研究スタート支援・課題番号24820008)により、同文献の一部について訳注研究を行った。

(2) 以上のテキスト校訂・訳注研究といった基礎的な研究成果をもとに、バースカラの思想を解明し、さらにはバースカラのインド思想史上の位置づけを明らかにすべく、考察結果を論考としてまとめ、発表公開してきた。バースカラはシャンカラの諸説を批判したことで知られているが、批判の内容を詳しく分析することにより、ヴェーダーンタ派を代表する両者の対立点をより明確にすることができた。以上の一連の研究を通じて明らかとなってきたことは、バースカラとシャンカラの対立点は、そのほとんどが彼らの世界観の違いに起因するものであるということである。さらに、彼らのそのような世界観を生み出す根本的なものを、彼らの所属する社会や生活スタイルの違いに見出せるのではないかと、という作業仮説のもとに研究を続けてきた。

2. 研究の目的

(1) 継続的に続けているプロジェクト「バースカラ」の一環として、今回の研究課題では『ギター・バースカラ註解』のテキスト校訂研究を行った。『ギター・バースカラ註解』の初版本は1965年に出版されたが、この刊本の不備がたびたび指摘されてきた。申請者も最近の研究において初版本が用いたサンスクリット写本に立ち返ってテキストの検証を行ったが、写本の転写ミスや解釈ミスによる誤りを数多く発見した。また、編集者の編集方針や編集技法は最新の学術水準に照らし合わせて必ずしも満足のいくものではなく、まずはこのテキストを再編集して新しいエディションを作成することが重要であると考えた。校訂版作成の際には、写本の情報忠実に採録すると同時に、申請者が手掛けたバースカラの『ブラフマーストラ註解』を十分に活用する。また、他の文献との関連にも注意し、引用、平行表現、相互参照などを完全に網羅したエディションを準備することを第一の目的とする。

(2) 『ギター』は、知識・行為・信愛という三つの救済の道を説くことで知られているが、バースカラはこの『ギター』を知行兼修という立場から解説しようとしたと言われている。この『ギター』に対する註解を比較検討し、シャンカラとバースカラの学説の対立構造を明らかにすることが両者の思想解明のカギとなるという予測のもの、(1)で準備した校訂テキストを精査し、それを文献学的に実証することをもう一つの主要目的として設定した。

3. 研究の方法

本研究は(1)刊本をもとにした作業用テキストの作成、(2)現存する写本との照合、(3)関連文献との照合を通じて引用元、平行表現、相互参照の同定という作業に分類し、『バガヴァッドギター・バースカラ註解』の新しいエディションを完成させる。

(1) 刊本をもとにした作業用テキストの作成

1965年に出版された Subhadra Jha の手による刊本は 201 ページからなり、デーヴァナーガリー

文字による本文と写本の異読情報を含む脚注より構成されている。最初の作業として、刊本の情報を本文、脚注ともにすべてデータ化する。

(2) 現存する写本との照合

『ギター・パースカラ註解』のテキストに関しては、ヴァラナシのサラスヴァティー・バヴァン所蔵のV写本とロンドンのウェルカム図書館所蔵のL写本が現存しており、これら2写本の照合作業を行う。

(3) 関連文献との照合を通じて引用元、平行表現、相互参照の同定

写本との照合作業と並行して、テキストに引用された文章の引用元、他の文献に見られる平行表現、文献内外に見られる相互参照などの同定を行う。近年ではインド学分野においてコンピューターによる検索可能な電子テキストデータベースが多く公開されており、これらを有効に活用してできる限りの情報を集める。集められた情報は、テキストの読みを確定する際の重要な根拠となり、同時にエディションの精度と信頼をさらに高めてくれることになる。また、この作業においては関連文献の写本などの資料が新たに必要となるが、これらについては必要に応じて資料収集を行う。

4. 研究成果

(1) 新エディションの作成

初版の評価

本課題を行うための予備的な調査では、Subhadra Jhaの手によって1965年に出版された『バガヴァッドギター・パースカラ註解』には多くの不備が見られることがわかっている。今回の調査では、このエディションがもつづいた、ヴァラナシのサラスヴァティー・バヴァン所蔵のV写本(A paper Ms in devanāgarī, also titled Bhagavadāśāyānusaraṇa, Sarasvatī Bhavana, Varanasi, No. 16559, 2-70 folios, incomplete)とロンドンのウェルカム図書館所蔵のL本(A paper Ms in śāradā, Wellcome Library, London, No. alpha 1241, 27 folios, incomplete)という原資料にさかのぼって再度テキストを作成し直すことで、これらの不備について一つ一つ検討した。これらの不備には単なる誤植もあれば、写本の読み間違いなどもある。本課題で特に問題視したのは、写本資料そのものにある欠陥とそれを取り扱う編集方法とである。

写本の照合作業とその評価

『パースカラ註解』の初版は『ギター』全体18章あるうちの9章途中で途切れている。これは、この初版がもつづいた2本の写本が不完全であることによるものである。現存部分は、V写本が冒頭からVII.16まで、L写本がIV.10からIX.33までであり、両者ともにテキスト全体をカバーするものではない。さらに、両写本は途中、欠落箇所を多く含んでいるため、これら写本資料自体に問題がある。

写本の照合作業を通じて明らかとなったことは、2本の写本のうち、V写本には誤写もしくは誤記が相当数見られるため、伝承の信頼度はかなり低いということ。L写本は4章途中から9章途中までとカバーする範囲が狭く、また、写本のマージン部分に欠損部分が見られるため、ところどころ欠落も多い。しかしながら、V写本とL写本が重なり合う部分を検討した場合、V写本に比べてL写本の読みはより誤りが少なく、その意味ではより信頼性が高いということがわかった。いずれにせよ、初版のテキストの大部分は資料として問題のある単独写本から校訂されたものであり、これらは編者のJhaのエメンデーション(修正)によって再現された部分をかかなり多く含んでいる。また、編者はこうしたエメンデーションの理由をどこにも示していない。今回の照合作業では、このように仮に示されたテキストの読みを、文法・文脈・他の文献との関係等、現時点で利用しうる限りのデータベース資料をもとに検討しなおした。編者のエメンデーションは時に行き過ぎ(修正し過ぎ)な場合があり、こうした部分についてはノートを付して詳細を論じ、必要な場合には再修正を施した。

今後の課題

写本との照合作業と並行して、テキストに引用された文章の引用元、他の文献に見られる平行表現、文献内外に見られる相互参照などの同定を行った。この作業は、欠陥の多い写本資料をできるだけ客観的に修正するために必須の作業である。しかしながら、引用文についてはそのソースを同定できなかったものが予想以上に多く残ってしまった。また、これ以外にも、写本情報からは原文を復元できず、意味の通らないままとなってしまう部分が残った。これらについてはノートを付して詳述し、過度な修正や憶測にもとづく改変は極力避けた。これらの引用元不明箇所、難読箇所については、今後も調査を続け、テキストの読みの精度を上げていきたい。(図1: unk.で引用元不明箇所を示し、判読の難しい部分についてはNotesにおいて詳述した。)

(2) カシュミール版『ギター』と『パースカラ註解』

カシュミール版『ギター』

『パースカラ・ギター註解』では、シャンカラが註釈したいわゆる『ギター流布版』と呼ばれる『ギター』とは少し異なったヴァージョンを読んでいることがこれまでの研究でたびたび指摘されてきたが、その詳細は未だ明らかとなっていない。本課題では、パースカラの『ギ

図1: 新エディションのアパレルイタス一例(上段は引用情報等、下段は異読情報)

³⁷unk. ³⁸Cf. KāthS VIII.1: वसन्ता ब्राह्मणेनाध्येयः ... ग्रीष्मे राजन्त्येनाध्येयस ... शरदि वैश्येनाध्येयस; BauSS

II.12: वसन्ते ब्राह्मणेनाध्येयस शरदि वैश्येनाध्येयस; ³⁹Cf. KāSS I.1.5: अङ्गदीनाभ्योनियच्छृङ्खलं

⁴⁰unk. ⁴¹unk.

1 न हि सर्वो हि Ed.] त वं नहि V 2 कन्नदिश्य V] शास्त्रवृत्त्या Ed., See Notes 2 नियोज्यन्व Ed.]

「ギター註解」、さらに『ギター註解』の中でバースカラが引用するギター章句に注目し、ギターの『カシュミール版』に対する諸註釈と比較検討をおこなった。『流布版』は10世紀末までカシュミールでは知られておらず、『シャンカラ註解』とともに『流布版』が広まったとするシュラーダー説、『カシュミール版』という固有のリセンションの存在に対して懐疑的なベルヴァルカル説、12世紀以前のカシュミールの著作者のほとんどは、シャンカラの採用する『流布版』とは異なる『カシュミール版』に言及しており、バースカラもその一人であるとするチンターマニ説、バースカラの読む『ギター』が『流布本』の読みよりも優れていることを示したポイトネン説等が代表的な先行研究である。

本課題の研究成果の一部として発表した論文“Interpretation of the *Bhagavadgītā* II.11”では、これら先行研究で課題とされた問題に対して、『ギター』諸註解の異読情報を用いながら、テクストの伝承という観点から考察し、一つの解決策を示したものである。この考察では伝承としてはよりマイナーな『カシュミール版』が『流布版』に影響されるというプロセスを経て、テクストに混態が生じた可能性を検討した。

バースカラの『ギター註解』については、Kato2011 (The First Two Chapters of Bhāskara's *Śārirakamīmāṃsābhāṣya*)、Kato2014 (A Note on the Kashmirian Recension of the BhG)、そして本研究課題の成果としてKato2016 (Interpretation of the BhG II.11) 等の研究にまとめてきたが、これら一連の研究に呼応する形で、Bansat-Boudon/Törzsök2017 (Abhinavagupta on the Kashmirian *Gītā*) らが同様の問題意識から最新の論考を発表しており、本課題の成果によって当該分野における新たな視座の提供と問題点の共有ができたと考えている。今後も国際的な連携のもと、この問題について研究を継続していきたい。

『バースカラ註解』の思想的立場

ヴェーダーンタの諸学匠のなかで、およそ同年代に属するシャンカラとバースカラとは様々な点で見解を異にするが、その代表的なものとして、彼らの救済論が挙げられる。シャンカラは「知のみにて解脱あり」という立場を一貫して主張するのに対し、バースカラはシャンカラの知即解脱を批判し、ウパニシャッドの知とヴェーダ祭式の遂行を両立させることで人は解脱することができるという知行兼修の立場をとったことで知られている。本課題では両者の『ギター註解』を比較検討することで、このような見解の相違がどこにどのように現れるのかについて考察してまとめ、国際学会において発表した (Bhāskara's *jñānakarmasamuccaya* Interpretation of the *Bhagavadgītā*)。この論考は『ブラフマーストラ・バースカラ註解』においてすでに確認されているバースカラの知行兼修説が彼の『ギター註解』においても同様に確認できることから出発し、バースカラの思想的な立場を検証するものである。バースカラによれば、知行兼修説こそが正統的な『ギター』解釈であるということであるが、この点は(1)にも示した『ギター』というテクスト自体や諸註釈の成立事情にも関連するため、より総合的な視点からの再検証が必要となろう。これについては今後さらに調査を進めていきたい。

研究成果の公開とその意義

本研究課題を遂行中、偶然にも、一般読者を対象とした『インド文化事典』(丸善出版:東京、2018)に含まれる項目「バガヴァッド・ギター」の執筆を担当することとなった。一般向けの事典という性格上、本課題で中心的に取り上げた写本研究やそれにもとづく専門的な成果をすべて盛り込むことはかなわなかったが、本課題で得られた最新の知見の内容の一部をそこに反映することができた。『バガヴァッド・ギター』は古代インドに生まれたヒンドゥーの聖典ではあるが、現在に至るまで世界中の人々の鑑賞に堪えてきた、人類共有の知的遺産といっても過言ではない。このような重要文献を扱った本研究課題の成果を、ほんの一端ではあるものの、この項目執筆を通じて広く一般に問うことができたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

加藤隆宏「ヴェーダーンタ哲学研究前史 ウパニシャッドの受容」『文化交流研究:東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』32, 2019, pp. 33-44.

Takahiro Kato. “The Development of the Concept of *avidyā* in Vivaraṇa Tradition.” *Prajñāpīyūṣam* 2018, p.177.

加藤隆宏「ヨハネス・ブロンクホルスト著『古代インドの瞑想---その二つの系譜』第1部「瞑想の二つの伝統」和訳」『人文学部論集論集』39, 2018, pp. 53-79.

Takahiro Kato. “Bhāskara’s *jñānakarmasamuccaya* Interpretation of the *Bhagavadgītā*.” Proceedings of International Seminar on Sanskrit Literature and Human Values, 2017, p. 33.

Takahiro Kato. “Interpretation of the *Bhagavadgītā* II.11.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 64/3, 2016, pp. 64-70.

Takahiro Kato. “Kāṇva and/or Mādhyandina: Bhāskara’s Acceptance of two recensions of *Bṛhadāraṇyaka-Upaniṣad*.” Editing Sanskrit Texts: Practices, methods, and dynamics in premodern and modern South Asia. 印刷中.

〔学会発表〕(計12件)

Takahiro Kato. “Ahiṃsā, abheda (Unity), and the Realization of the Truth.” 19th International Conference of Chief Justices of the World, City Montessori School, Lucknow (India). 2018年11月.

加藤隆宏「初期不二一元論派における anvayavyatireka 説再考」, 日本印度学仏教学会第 69 回学術大会, パネル「インド哲学における因果性確定の方法をめぐって」於 東洋大学, 東京. 2018 年 9 月 .

Takahiro Kato. "The Development of the Concept of *avidyā* in Vivaraṇa Tradition." 49th All India Oriental Conference, Somnath Sanskrit University, Veraval (India). 2018 年 5 月 .

Takahiro Kato. "The Concept of Responsibility in Indian Tradition," International Conference of Indian Society for Indic Studies on Applied Ancient Wisdom for Transformational Leadership, University of Delhi, New Delhi (India). 2018 年 2 月 .

Takahiro Kato. "Bhāskara's jñānakarmasamuccaya Interpretation of the *Bhagavadgītā*." International Seminar on Sanskrit Literature and Human Values, Kalindi College, New Delhi (India). 2017 年 3 月 .

Takahiro Kato. "Interpretation of *mithyājñānanimitta* in the *Pañcapādikā*." 22nd International Congress of Vedānta. JNU. New Delhi (India). 2015 年 12 月 .

加藤隆宏「バガヴァッドギーター」II.11 の解釈をめぐって, 日本印度学仏教学会第 66 回学術大会 於 高野山大学, 和歌山. 2015 年 9 月 .

Takahiro Kato. "Kāṇva and/or Mādhyandina: Bhāskara's Acceptance of two recensions of *Bṛhadāraṇyaka-Upaniṣad*." XVIth World Sanskrit Conference, Bangkok (Thailand). 2015 年 7 月 .

〔図書〕(計 1 件)

〔項目〕加藤隆宏「バガヴァッド・ギーター」, 『インド文化事典』, 丸善出版: 東京. 2018. pp. 212-213 .

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名 :

ローマ字氏名 :

所属研究機関名 :

部局名 :

職名 :

研究者番号 (8 桁):

(2)研究協力者

研究協力者氏名 :

ローマ字氏名 :

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。